

2014年2月17日

各 位

積水ハウス株式会社

代表取締役社長：阿部 俊 則

本社：大阪市北区大淀中1-1-88

マ ッ ス ル 株 式 会 社

代表取締役社長：玉井 博 文

本社：大阪市中央区今橋2-5-8

積水ハウス株式会社とマッスル株式会社 住宅内でのロボット技術の応用に関する共同研究・開発を開始

積水ハウス株式会社(以下、積水ハウス)とロボット、医療用機器などを得意とするマッスル株式会社(以下、マッスル)は、住宅内におけるロボット技術の応用に関する共同研究・開発を開始します。



内閣府の「高齢社会白書H25年度版」によると、65歳以上の要介護者等認定者数は、2010年度末で490万人にのぼり、2001年度末から203万人増と急速に増加しており、実に男性の42%、女性の30%が「自宅での介護」を希望しています。いつまでも我が家で快適に暮らしていきたいという高いニーズがある反面、老老介護や介護者の負担の増加などが社会課題となっています。

これらの課題解決のため、両社は、人にやさしいロボット技術の導入による高齢者在宅介護の支援や、人とロボットの双方の得意分野を生かすことができる住空間、自然に共存できるロボットのあり方などについて、マッスル社の移乗システムの積水ハウス顧客の住宅や介護施設への販売への業務提携も視野に入れながら、共同研究・開発を行います。

あくまでもロボットと要介護者ではなく、そこに介護者などの人が介在することで、人のぬくもりのある介護が可能になります。この考えのもと、介護者の手のように扱えて、負担を軽減する移動介護ロボット技術を活用して、要介護者のお風呂などの水回りや庭などの戸外空間へのスムーズな移動を可能にする空間設計について検証します。

また、マッスル社のモーションコントロール(制御システム)技術を活用し、「HEMS」での温熱環境制御に合わせた開口部の開閉自動制御の他、設備機器類の高さ制御、玄関の段差の解消などの住宅の可変性の向上についても共同研究・開発を行います。

積水ハウス総合住宅研究所 納得工房の施設を中心に、ロボット技術が活かせる住空間について共同研究・検証を開始し、2014年内には、実際の居住空間での検証を行い、その後、積水ハウスのお客様によるモニター実証実験等を実施、2015年末をめどに「共創」による技術の実証やビジネスモデルの確立を目指します。

両社は人々の生活向上という共通理念のもと、ロボット技術と住空間設計の融合による生活の質の向上をテーマに、研究・開発を進め、成果を定期的に発信していきます。

本件に関するお問合せ

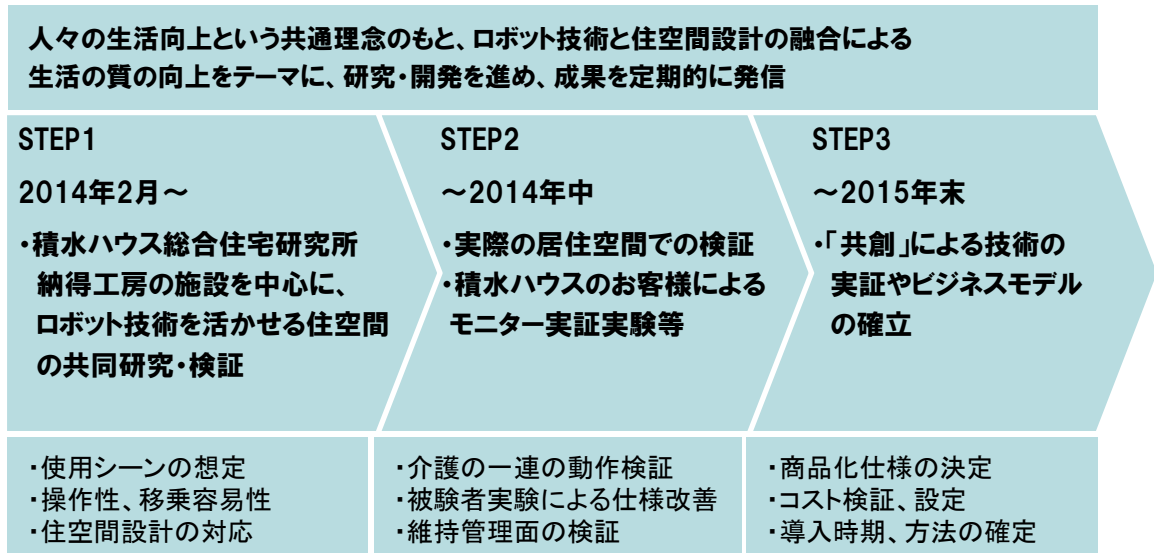
積水ハウス株式会社 広報部

TEL06-6440-3021

マッスル株式会社 広報担当

TEL06-6229-9550

共同研究・開発ロードマップ



(ご参考)

【積水ハウス株式会社について】

本社：大阪市北区大淀中1-1-88 梅田スカイビル タワーイースト

社長：阿部 俊則

積水ハウスは、誰もが「いつもいまが快適」と感じながら暮らせる住環境の創造を目指す「生涯住宅思想」のもと、40年近く人間工学や生活工学に基づいたユニバーサルデザイン(UD)研究を行っています。いつまでも健康で快適に暮らしていくための住まいのあり方について、「総合住宅研究所」(京都府木津川市)や「SUMUFUMULAB(住ムフムラボ)」(グランフロント大阪内)などで、一般生活者とともに、研究を重ねています。

【マッスル株式会社について】

本社：大阪市中央区今橋2-5-8 トレードピア淀屋橋6階

社長：玉井 博文

マッスルは、FA機器やロボット、医療用機器等のモーションコントロール(制御システム)を得意としており、一体型ACサーボシステム「クールマッスル」の開発に成功し、世界へ展開しています。これらの技術をいかして、介護者の負担を軽減する移乗システム「ロボヘルパー・サスケ」や、自動排泄処理装置「ロボヘルパー・ラブ」などを開発するなど、より人間の筋肉に近いロボット製品などで、人々の生活向上を目指しています。